

イワタ太ゴシック体 95Q

こ元
ど気
もな

イワタ中太ゴシック体 95Q

そ言
よの
ぐ葉

イワタ中ゴシック体 95Q

揺こ
れこ
てろ

イワタ中ゴシック体 45Q

こころ揺れて、言の葉そよぐ

イワタ中太ゴシック体 45Q

こころ揺れて、言の葉そよぐ

イワタ太ゴシック体 45Q

こころ揺れて、言の葉そよぐ

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とうに電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え立てていた。これらはその時の私の心もちと、不思議な位似つかわしい景色だった。私の頭の中には云いようのない疲労と倦怠とが、まるで雪曇りの空のようなどんよりのポケットへじっと両手をつ

イワタ中太ゴシック体 24Q / 行間 32H 送り

こころ揺れて、言の葉そよぐ

イワタ中太ゴシック体新がな 23Q / 行間 28H 送り

イワタ中太ゴシック体新がな 23Q / 行間 28H 送り

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とうに電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え立てていた。これらはその時の私の心もちと、不思議な位似つかわしい景色だった。私の頭の中には云いようのない疲労と倦怠とが、まるで雪曇りの空のようなどんよ

イワタ太ゴシック体新がな 95Q

こ元
ど気
もな

イワタ中太ゴシック体新がな 95Q

そ言
よの
ぐ葉

イワタ中ゴシック体新がな 95Q

揺こ
れこ
てろ

イワタ中ゴシック体新がな 45Q

こころ揺れて、言の葉そよぐ

イワタ中太ゴシック体新がな 45Q

こころ揺れて、言の葉そよぐ

イワタ太ゴシック体新がな 45Q

こころ揺れて、言の葉そよぐ